

## ( 大阪あかつき会 第24回例会 )

### 「ヒマラヤ処女峰を目指して」

阪・神・奈に縁のある方々の集いである「大阪あかつき会」の第24回例会が平成26年10月3日、畑暁木会会長をお迎えし、34名の参加を得て開催され、山田健氏(27回、兵庫県庁)に「ヒマラヤ処女峰を目指して」と題して、神戸大学山岳部・山岳会の活動について講演いただきました。

山岳会は1915年に創立され、戦前は台湾、1950年代は南米等に遠征していた。1970年代に入り世界の傾向とも合わせ、ヒマラヤ山脈に的を絞った。多数のシェルパ等を雇う商業登山が盛んになり、処女峰が徐々に減少していく中、1980年にクーラカンリ峰(7554m)の初登頂に成功し、また2009年にも浸食谷が深く、気候的にも厳しい東部ヒマラヤの中国ロプチン峰(6500m)の初登頂にも成功し、大学山岳界でその評価を高めている。

山田氏が副隊長を務めたロプチン峰遠征は、中国地質大学(温家宝前首相の母校)との共同登山であった。ロプチン峰があるカンリブル山脈は東部ヒマラヤに属し、長江・メコン等の源流域であり、大摺曲地域で浸食谷が深く、ベンガル湾からの風雲も多く、大変厳しい環境にある。このため処女峰が連なっている。

登山は登山許可・資金・隊員の確保等その8割が準備である。ベースキャンプを出発し、極地法により順次高度を上げる。幸い天候にも恵まれ抜群の登山能力を有するチベット族隊員2名が最終キャンプを飛ばし、初登頂に成功する。日本人隊員二人もその後初登頂に見事成功するが体力を消耗し遭難寸前の帰還であった。「登頂成功は隊の成功であり、アタック隊員個人の成功でない」との山田氏の言葉に、登山の難かしさ、楽しさを垣間見る思いがした。

学術登山であり、地質学的にも新たな発見もあり、また登山を通じて日本・漢・チベット三民族の協調・融和も実現された。政情不安なチベットでの登山許可を得ることが出来たのは、長年に亘る地質大学との交流・友好関係があり、信頼関係が確立されているからであり、山岳関係者の垂涎の的のようである。貴重な写真と巧みなスピーチで大変面白い講演でした。

講演後の懇親会も盛り上がり、時の経つのも忘れてしまう程で大盛況の例会でした。次回は平成27年10月2日(金)の開催を予定しています。自由な集いです。皆様の参加をお待ちしています。(文責 池野)

